



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会

2013

7

No.499

教会報



永遠なものを求めて

～聖イグナチオの言葉に学ぶ～

助任司祭・片柳

今年も、聖イグナチオ・デ・ロヨラの記念日(7月31日)が近づいてきました。私は毎年、この時期になると聖イグナチオの書簡集を読み返します。イエズス会に入った時に修練長から配られ、それから何十回となく読み返している本ですが、読むたびに新しい発見のある、霊的恵みの宝庫のような本です。

その中でも特に励まされるのは、1547年に聖イグナチオがローマからポルトガルのコインブラにある神学院の学生たちに宛てて書いた、「完徳の手紙」と呼ばれる有名な書簡の一節です。この手紙の中で聖イグナチオはまず、怠惰に流れがちな学生たちの心に拍車をかけ、奮い立たせるために、神から受けた恵みの大きさを思い起こさせ、その恵みにこたえるために「よい意味での猛烈人間」になることを勧めています。聖イグナチオは、次のように語ります。

「あなたがたが永遠なものを求めるよりもさらに勤勉に、命がけで、この世の子らが地上の一時的なものを追い求めるなどということ、平然と見過ごしてはなりません。あなたが永遠の生命に向かって行くよりもずっと足早に、彼らが死に向かって走ってゆくのを恥ずかしく思いなさい。」

「弓はひきすぎること折れ、気力は怠惰によって折れる」という諺の通り、怠惰こそ「神のより大いなる栄光のため」に自分のすべてを差し出すイエズス会員の最大の敵だと聖イグナチオは言います。そして、地上の兵士が、「キリストの兵士」として選ばれたイエズス会員が神の栄光を求める以上の熱心さで地上の栄達や成功を求めているなら、それは大きな恥だ。目的実現のための熱心さにおいて、イエズス会員は誰にも負けてはならない、と言って学生たちに拍車をかけるのです。

もちろん、この激励のあとで、聖イグナチオは行き過ぎを諫めてもいます。無分別な熱心は、長続きしないばかりか危険だと言うのです。しかし、とにかく怠惰に流れがちなわたしとしては、この激励の言葉を額面通りに受け取り、自分自身の生活を律するための指針にしたいと思っています。企業戦士と呼ばれるような会社員、出世や権力を目指す政治家など、あらゆるこの世の熱心さに負けないほどの熱心さを持って「神の国」の実現に当たりたいものです。



シリーズ「何でも知っとこ」(4)

「罪とは何か？」

片柳 (助任司祭)

「ゆるしの秘跡を受けたいけれど、何が自分の罪なのかよくわからない」、「昔は大罪とか小罪という区別があったが、いまはどうなってしまったのだろう」というような声を聞くことがあります。そこで今回は、罪について学びたいと思います。

1. 罪の定義

現代の神学において、罪とは神様との関係性の破壊であると考えられています。神様と一つに結ばれていることこそが人間の救いなのですが、人間は自分中心の考え方に陥って神様との関係を自ら壊してしまうことがあります。それが罪なのです。

自分自身を汚すような行為や自分で自分を信頼できなくなるような行為をするとき、他人を傷つけたり無視したりするとき、社会に対して害を与えるような行動をとるとき、わたしたちは自分自身、他者、そして社会との関係を破壊すると同時に、神様との関係を破壊します。なぜなら、神様の御旨は、わたしたちが自分自身を愛し、また他者を愛し、創造の秩序に従った社会を実現していくことだからです。ですから、そのような行動も神に対する罪ということになります。

2. ゆるしの定義

その逆に、ゆるしとは神様との関係性が回復される恵み、神様と和解する恵みです。ゆるしの秘跡を受けることで、壊れていた神様との関係が回復され、自分自身や他者、そして社会との関係を回復するために必要な力がわたしたちに与えられるのです。

自分自身や他者、社会を傷つけてしまっている場合、神様との和解をより完全なものにするためには行動が必要です。破壊してしまった関係性を取り戻すため、わたしたちは、自分を愛し、他者を愛し、社会を愛するために最善の努力を尽くす必要があるのです。そのための力は、ゆるしの秘跡を通して神様から与えられます。

3. 大罪と小罪

大罪は、ゆるしの秘跡か病者の塗油を受けなければゆるされません。では、大罪と小罪の違いはなんでしょうか。大罪とは神様との関係性を決定的に破壊するような行動であり、小罪とはそこまでには至らないけれども神様に対して申し訳ないと思うような行動だと考えたらどうかと思います。「こんなことをしてしまった以上、もはや神様に合わせる顔がない。きちんとお詫びしてゆるしていただかなければ」という思いを引き起こすような行為が大罪で、そこまでは至らないけれども申し訳ないと感じるような行為は小罪だと思ったらいいのではないのでしょうか。

4. 原罪との関係

洗礼によって原罪はなくなりますが、わたしたちの心には原罪の影響としての情欲が残り、わたしたちを罪へと誘います。情欲に負けて犯す罪を、自分がした罪という意味で自罪と呼びます。自罪はゆるしの秘跡や病者の塗油、聖体拝領(小罪のみ)などによってゆるされます。



忘 れ な い で !

～東日本の被災地から～ 「東日本被災地のボランティア活動報告」

第 3 回 「かもめの子」

「ここに花壇をいっぱい作りたいの。ベンチを置いて、パラソルも用意して。地域の人たちが立ち寄って、話のできる場所にしたい。」と、大船渡ベースに常駐されているシスターが言われた場所。

ここはベースから30mほど離れた、津波で流された民家の跡地です。

土地の持ち主は、大船渡銘菓「かもめの玉子」を作っている会社の副社長。津波で工場も自宅も流され、自身は仮設住宅から会社の再興に向けて頑張っておられます。

広い敷地の片隅に、全てが流される前に大切にしていた花壇があったそうです。心を込めて育てていた花たちも流され、仮設に移る時もそのことだけが心に陰を残していた、そんなことを聞いたシスターは、もともと花壇のあったその場所を掘り起こし、土を入れ替えて昨年花を咲かせました。それを見た持ち主の方は「花壇を残していただけるなら、この土地を好きに使って下さい。」と涙を流して言われたそうです。

そんな土地、地域の憩いの場所にしたいという思いから、敷地のあちこちに花壇を作ることにしました。ボランティア達も、花がいっぱい咲く姿を想像して、張り切ってショベルやらつるはしを担ぎ、この場所に來たのです。

ところが、海水を被り、瓦礫を埋め、重機が踏みしめた土地はとてつもなく堅いのです。ショベルは全く歯が立たず、つるはしをふるっても次から次に石に当たり、ほとんど掘ることができません。

ボランティア達も「賽の河原の小石積み」と言いながら、手で少しずつ石を掘り出していったのです。そうしていると、いろいろなものが出てきます。「これ、タオルだね」「カセットテープが出てきた」「おもちゃの破片、かな」。そして、「生」と一文字だけ読み取れる破片が。みんな、その小さな破片に言葉を失ったのです。

どんな文の一部なのかはわかりません。ただ、その一文字だけが読み取れることに、そこにいたみんながいろんな思いを抱いたことは事実です。祈りを捧げ、黙祷を自然にして、またみんなは作業を続けました。

「ここに生かされている」という事実を、その場にいたみんなが共有したのだと思います。そして、気がつけば花壇を作りたい場所があちこちにはつきり掘り起こされ、出てきた大きな石がその周りを囲むように置かれ、明らかにここは花が咲くための場所だとわかるように変わっていたのです。今にも雨が降り出しそうな天気の中、そこにいたみんなの笑顔で、一足先に花が咲いたようでした。道行く近所の方が足を止め、今まで挨拶に返事を返さなかった方までが、話しかけてきたのです。小さな奇跡を、みんなが体験しました。神様は、確かにそこに働いておられました。

「土を新しく入れないとね」と話していると、「うちに園芸用の土がいっぱいあるから持って行って」と言って下さった方、見に行くと山のようにある土を無償で下さると。この後にベースでお手伝いくださるボランティアの皆さんの手で、きっと素晴らしい花壇ができあがっていくのだと思います。「かもめの玉子」は、心の中で芽を出して、花を咲かせることになりました。被災された、この土地の持ち主の方にもそう思ってもらえたらと願っています。

被災された本当に多くの方々全てに思いが届くとは思いませんが、小さなことが積み重なって復興は進んでいくのだろうと感じます。そこに花が咲いているだけで、心がちょっとでも安らぐのであれば、そのための行動はきっと多くの実を結ぶのだと信じることができます。離れていても、何かできることがある、そう考えての純粋な行動に共感するものがあれば、参加できるならする、という気持ちも大切だと思います。

漁業支援の昼休み、わかめの出荷前の加工で、慣れない作業にへとへとだったボランティアの高校生たちが、すぐ横の砂浜で波打ち際ダッシュを始めました。明るい歓声が響く中、漁師さんが言いました。「ここはもともと海水浴場



ふざけているような光景でさえ、被災した人にとっては希望の明かりになる、美しい海でそんなことも知りました。

信仰年を過ごす私達にとって皆様と心をつなにして、御聖体の前でお祈りできましたことは、イエス様の愛を一人ひとりが受け止め更には回りの人々へ、信仰の喜びを伝える糧となったのではと思っております。また共に祈ることで、共同体として一致して歩んで行けるのではないかと思います。

（ 堀 ）



小教区評議会年次報告会に参加して

6月16日年間第11主日10時ミサの後、大聖堂にて2012年度小教区会計報告並びに2013年度評議会の新メンバーの紹介がありました。プロジェクターを使って詳しい説明があり、年老いた私でも良く分かるように説明していただきました。

正味30分の集まりでしたが、参加した人が少数であったことに驚いています。確かに、少子高齢化、毎年参加者が減少しているようですが、だからと言って「仕方がない？」ということではなく、もっと自分の所属している小教区に関心を持って戴き、一緒に「明日の教会に向かって歩みたいなあ」と思いました。

私の考えですが、六甲教会はこの教会に所属している私たち信徒全員のものだと思うのです。だから少なくとも私たちの教会がどういう現況にあるのか、知っておいたほうが良いと思います。

そして今、私たちは「信仰年」に当って5つのテーマ ①信じる ②祈る ③祝う ④信仰を生きる ⑤証人として派遣される。この5つのステップを歩み続けています。現在は5月20日から④の期間に入っています。それは私たちが、生活の中で信仰の実践を行っていくうえで、祈りと共にその活動の中心として「教会」を考えなければならないと思うのです。その「教会」、私たちの教会が例えば、年齢の構成比や一年間の動静、建物のメンテナンスにどれだけ使ったのか、維持費や献金がどれだけあって、どのように使われているのか等など。こうした具体的なことにも少し目を向けることも大切であると思います。

つまり、神の栄光の実現のためには、教会共同体の柱となっている信仰とそれを支える財政についても知ることが大切でしょう。この地域に神の愛を宣べ伝えることを委ねられた者同志、みんなで協力しながら共に素晴らしい教会共同体作りに努めましょう。

イエスの愛が私のためであり、また同時にすべての人へ向けられているように、六甲教会はみんなの教会であり、私たちの教会なのです。明日の教会共同体作りの為に、お互いの共通理解を深めるためにも共同体の年間行事に積極的に参加しませんか。
(なんでも参加のお邪魔虫より)

<行事報告>

神戸大会に参加して

教会に到着したのは8時半。会計担当のHさんが長机を出して、参加費の徴収とTシャツの販売を始められていた。お弁当やTシャツを積み込み、出発前の点呼を取ると2名の方が未着。お知り合いの方に自宅へ電話確認頂き、定刻を10分遅れで出発した。

1時間弱で最初の立寄地「国営明石海峡公園」に到着したが、昼食には早すぎるので散策だけにし、次の立寄地までの間に車中でとることにした。「たこせんべい館」では、それぞれ思い思いのお土産を買い込み、ほぼ定刻に神戸地区各教会の仕立てたバスが並ぶ「しずかホール」に到着した。

共同ミサに始まる第一部、休憩を挟んでアトラクションの第二部と続き、あっという間の3時間余であった。中でも一番盛り上がったのは、阿波踊り(葵連淡路支部、洲本教会主催)だったように思うが、舞台と会場全体がお囃子のリズムに合わせて一塊になったようだった。

帰途は、トイレ休憩を兼ねてお土産を買い足し、途中阪神高速の渋滞でヒヤッとしたが、1時間遅れで六甲教会に無事帰還した。

降らず照らずの中、荷物の積み込みやお弁当の配布の際には、多くの方が気持ちよくお手伝い下さり、親睦のためのバス旅行としては、有意義な1日だったと思える。唯一残念だったのは、折角ミサに与りながら、聖体拝領ができなかったことであつた。

(小林)

今年の神戸地区大会の準備は、神戸地区小教区評議会の西ブロックが中心になって行われました。私は六甲教会から世話人として加わり、当日六甲教会からの参加者 50 名を運ぶ大型バスや弁当の手配、会場までの行程作成、そして当日の会場設営のお手伝いなどが主なる仕事でした。

今回は神戸地区で 1 番小さい洲本教会の方たちに、同じ共同体として少しでも多く参加していただく為に、淡路島を会場として選びました。当日は朝早くから洲本教会の方々が会場設営に従事され、彼等の仕事ぶりからも地元開催の喜びを感じることが出来ました。お昼を過ぎると、続々と各地からバスが到着。会場も人、人、人で埋めつくされ、開会宣言の近づくにつれ大会の熱気が会場内に広がっていきました。

13 時から松浦司教補佐始め、各小教区司祭の司式によるミサが厳かに始まりました。約 700 名の参加者が共に祈り、共に分かち合うミサが終わると、プログラム第 2 部は余興タイム。地元淡路島の「葵連」が阿波踊りを踊り始めると、会場も最高潮に盛り上がり、最後は舞台も会場も一体となって阿波踊りに興じました。また「たかとり教会」のベトナム信徒による踊りも美しく、見る者を魅了しました。約 3 時間半の神戸地区大会でしたが、日頃あまり顔を合わすことがない 11 小教区の皆様が、共に時間と喜びを共有出来たことは有意義だったと思います。

(蛭田)

松浦司教補佐、司祭たちによるミサ。



ベトナムの皆さんのバンブーダンス。



松浦司教補佐、松浦神父さんも阿波踊りを披露。



<行事報告>

初 聖 体 ・ 祝 福 式

6月2日ご聖体の祝日のミサの中で教会学校3年生の初聖体・祝福式がありました。

これからも教会の皆さまと一緒に子どもたちの成長を楽しみに見守っていくことが出来ればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

また、初聖体・祝福式に際し、お祝いいただきました教会の皆さま、ありがとうございました。心より御礼申しあげます。

以下は式に与った子供たちと保護者の方の感想です。1年をかけて準備をしてきた喜びの声をお聞きください。

【子どもたちの感想】

赤木

ごせいたいをたべられたのですごくうれしかったです。はつせいたいをうけるときに、はずかしかったけどごせいたいをたべられてうれしかったです。

赤木

はじめてごせいたいをうけることができてほんとうにすごうれしかった。
さいごのパーティーでケーキとゼリーとパンとフルーツをたべてすごくおいしかったです。
これからは、じしやをやらないといけないので、すごくはずかしいです。

志賀

日曜日、六甲教会で、私たち三年生が、初聖体をうけました。この初聖体でかんじた事は、たくさんの人に「おめでとう！」と言ってもらえてとてもうれしかった事です。それと、とてもきんちょうした事です。
どうして「おめでとう！」と、たくさんの方が、言って下さったのかを考えてみました。それは、3つあると思います。
一つ目は、私たちが、大人の仲間入りをした事。
二つ目は、神様を私たちの体にいただけるようになった事。
三つ目は、一年生の時からじゅんびしてきた本番が、ついにやってきたからだと思います。
これからも、今日のようなうれしいけいけんをかさねていきたいと思います。
たんになの光宮先生からは、“人が初聖体をうける時は、このよろこびを自分のことのようにいわせる人になろう”というお言葉をいただきました。

鈴木 律紡

はつせい体でさいしょすこしきんちょうして、入じようするときはやく歩いていけど、ほうのうで外へ出るときは、さいしょのきんちょうをわすれたようにどうどうと歩けました。それでれん習のとき前のほうのうの人がおわっていないときに、おいていけど、ほんばんのときには、その人たちがおわってからおけた。
前はごせいたいがおいしいかとおもっていたけれど、前 6 年生がおいしくないといっていたので、おいしくないのかなとおもってたべたら本当においしくなかったので本当なんだとおもいました。

中山

ごせいたいはおせんべいみたいでかたかったです。あじはしませんでした。
ろうどくはきんちょうしたけど、うまくいってうれしかったです。
ありがとうございました。

西村

私は朝、お友だちと楽しみだねといっていました。でも時間がせまってくるうちにだんだんはずかしくなってきました。式がはじまりました。でもあんまりはずかしかったので式があつというまにおわったような気がしました。きょうどうきがんはじしんをもって言えてよかったです。

見市

私は、初聖体をみんなにおいおいしてもらったことを、心からかんしゃしています。
いつも、一年生の前半から、3 年生の前半まで、学校や教会学校で楽しくキリスト教のことを学び、6 月 2 日に初聖体をうけることができました。リーダー方、そして学校の先生方ありがとうございました。

【保護者の方の感想】

赤木

いつも教会学校でふざけてばかり・・・という話を聞いていたので、ハラハラドキドキでしたが、無事に初聖体式を終えることができて、ホッとしています。子どもたちと共に準備を進める中で私自身も信仰を新たにさせていただいたことも大きな恵みでした。
また、ミサ後のパーティーでは息子たちの食物アレルギーに配慮して、全て除去食で用意していただいた事も、言葉にできない程うれしく思いました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

西村

初聖体・祝福式に参加させて頂き、誠にありがとうございました。
一緒に式に参加されたお友だちと並ぶ後姿と共同祈願を行う姿を見て、少し大きくなり立派になったことを感じ幸せに思いました。
また、多くの関係者の方々に見守られ祝福を頂いた事は、娘にとって「多くの人に守られている」喜びと安心感を頂いたと思います。今後も娘には、今日頂いた喜びと安心感を忘れずに成長してほしいと思います。
今回、この様な時間を頂いた事は、私自身にも良い機会だったと思います。本当にありがとうございました。

見市

今回、3年生、9人が、初聖体・祝福式を迎えることができ、本当にありがとうございました。

子どもからは、「今日は聖書の〇〇を読んで、リーダーやみんなと話し合っ、プリントに感想を書いたよ」などと聞いていました。実際、春休み中の錬成会での「洗足体験」や「十字架の道ゆき」などに、一緒に私も参加させて頂き、聖書をもう一度じっくり考え直す機会にもなりました。子どもだけでなく、私自身も、初聖体を自分が受けた頃の事を思い出したりして、ゆっくり心の準備をすることができたと、リーダー方や神父様にも本当に感謝しております。

初聖体の日が近くなってきた時、次女と主人が「初聖体って何？」と質問したのですが、自分の言葉で、私にも説明してくれました。2年生の一年間と少しの間ですが、リーダー方と神父様と一緒に、神様のことをたくさん学んで、心の準備ができたのだなあと感激でした。

毎週の教会学校も、本当に楽しみにしている様子です。これからもよろしくお願い致します。

(記:教会学校2年生リーダー)

■ 初聖体

- | | |
|----------------|------------------|
| ・フランシスコ・マリア 赤木 | ・イグナチオ・マリア 赤木 |
| ・小さき花のテレジア 志賀 | ・ヨゼフ 鈴木 |
| ・ベルナデッタ 中山 | ・チェチリア 林 |
| ・アンデレ 平岡 | ・ハンガリーのエリザベート 見市 |

■ 祝 福

- ・西村

<行事報告>

典礼奉仕者の集い

六甲教会の典礼奉仕者は、集会祭儀、臨時の聖体授与、祭壇奉仕、先唱、朗読、独唱、オルガン、お花係、ミサ案内係、海星病院奉仕者として、延べ120人以上の方が奉仕されています。典礼奉仕者の集いは同じプログラムで6月15日(土)(28名参加)と6月23日(日)(27名参加)に行われました。

片柳神父様からは「フランシスコ教皇の言葉に学ぶ」という資料の提供がありました。そのお言葉は私たちにとって大変厳しいものでしたが、毎日の生活の中で本当に神の教えを実践しておられることがひしひしと伝わってくる素晴らしい内容でした。神父様がその一つ一つについて具体的な例示をまじえて説明してくださいました。その後、3~4のグループに分かれて分かち合いをおこない、分かち合いでは、1、「フランシスコ教皇の言葉に学ぶ」のお話についての感想、2、典礼奉仕者としての思いや典礼部に対する意見、の2つをテーマとして話し合いを行いました。最後に、グループの代表による結果発表で締めくくりました。

教皇様のお言葉に対しては、個々いろいろ立場で受け方に違いはありましたが、深い感銘を受けたとの意見が多かったです。出された意見は、本当に千差万別、典礼の枠を超えた意見も沢山出されました。私にとっても様々な意見が聞けた貴重な時間であったと思います。(河野)

<行事報告>

中高生会錬成会

6月15日(土)18:00～6月16日(日)9:30 六甲学院にて

● 高1 篠原 岳

今回の錬成会では、楽しくバーベキューをして夜の聖書を読んで歌を歌って心を落ち着けられて、とても良かったと思います。

特にバーベキューでは、僕が中高生会にあまり出ていないため、初めて会う人が多かったけれど、バーベキューを通してそこそこ仲良くなれて良かったです。今回の錬成会では多くのことが学べました。

● 中3 吉村 優里

BBQを皆と出来てとても楽しかったです。皆とBBQの準備をしたりしてたくさんの人とお友達になりました！

また、夜の聖堂での聖書の言葉がとても心にとまりました。皆で『こころをあわせて』を歌えて心が一つになったような感じがしました。

● 中1 鈴木 湧音

1日目にバーベキューをしたり、朝ごはんを一緒に食べたりして、先生や先輩や、教会の人などに関わることが出来て良かった。また庭園や聖堂で、静かに自分のことを振り返ることが出来て良かった。これからも色々な活動に参加していきたい。

● リーダーより 佐藤 雅孝

今回の錬成会ではバーベキューをして宿泊して、中高生同士がお互いのことをよく知ることが出来たと思います。中高生の皆が祈りを深めることによって神からの呼びかけに耳を傾け、今後よりよい道を歩んでいくことが出来るよう、皆様もお祈り下さい。

安芸神父さまをお送りして

6月2日(日)永く六甲教会でお世話下さった安芸神父さまが療養のため東京のロヨラハウスへ移られると聞いて私たちは名残惜しい思いでお見送りに行きました。新神戸の駅にはたくさんの信徒や教え子のご父兄などがお見送りに来ていました。三日月会や地区の集会ではいろいろと良きご指導を頂き、私たちの信仰生活を支えて下さいましたことを感謝いたします。どうぞごゆっくりご養生なさってください。またいつの日かお会い出来るように願っています。
(三日月会 会長 鈴木)

安芸神父さま、六甲教会のために長い間お世話くださり、本当にありがとうございました！！



新神戸駅まで多くの方がお見送りに行かれました。
「神父様、いつまでもお元気で！」



墓地っ子だより

カトリック六甲教会・墓地委員会 S F

お墓も毎日のように変化しています。特に初夏は雑草真っ盛りです。
個人のお墓は個人の皆さんで草取りをしてください。雑草に埋もれています。



草が生えています。隣まで伸びていきますので
早く草取りをして下さい。



イエズス会のお墓がすっきりしました。

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

☞ 教会学校

7月13日(月) 終業式

キャンプリーダー研修会

☞ 地区会

7月21日(日)11:15 役員会

☞ 施設管理部

7月28日(日)10時ミサ後部会

☞ 典礼部

7月20日(土)10:00 典礼部会

☞ 社会活動部

7月5日(日)初金ミサ後連絡会

☞ 中高生会

8月13日(火)～15日(木) 夏キャンプ

レーベンス・シュレーにて

テーマ:神さまがキミを呼んでいる

★ 社会活動部より ★

- 7月3日(水) 10時 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。
- 5日(金) 初金ミサ後 ♪社会活動部・連絡会 第2会議室 どなたでも参加ご自由です。
- 13日(金) 10時 ♪炊き出し お台所 小野浜グラウンドにて配食やおじさんたち
とのお話し相手だけでもOKです。
- 18日(木) 14時 ♪ベタニアの集い イグナチオホール 聖体拝領式&茶話会
奇数月第3木曜日開催
- 21日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場 イグナチオホール
お弁当・手芸品等の販売、東北物産展
- 26日(金) 9時30分 ♪ともしびケーキ作り イグナチオお台所

★ 広報部より ★

いつも教会報をご愛読いただきましてありがとうございます。

来月号は初版から500号目にあたります。約40年余り多くの先輩たちがこの教会報に携わり、その努力のお陰で今日に至っています。

現在は4人の部員が交代で、毎月の編集に励んでいます。内容面において不満足な点もあるかと思いますが、これは我々編集部員だけの力では解決する問題ではなく、皆様のご協力があって成り立つものだと思います。

つきましては、来月500号を迎えるに当たり、教会報への感想や追想など書いていただければ幸いです。

部員一同より多くの方の寄稿をお待ちしております。



2013年5月に入った図書の紹介

☆ 高木仙右衛門に関する研究 —— 高木慶子 著 思文閣出版

浦上四番崩れで、津和野などに流されていったキリシタンの中核にいた仙右衛門の「覚書」を基に、弾圧との厳しい隠れキリシタンの闘いを考察する。強い信仰と祈りの中での生き方は私たちに確かなメッセージを送ってくれます。S r. 高木が自身で書かれているように少々難解ではありますが、高木仙右衛門や岩永マキたちの心意気が「信仰年」に生きようとする私たちに力を与えてくれます。

☆ 第二バチカン公会議に学ぶ —— 糸永真一著 サンパウロ刊

カトリック鹿児島教区の引退司教である師が、12年10月11日から今年11月24日までを「信仰年」と定めた前教皇ベネディクト16世の勧めに従って、50年にわたる司牧経験を基に第二バチカン国会議の意味をふり返る。「信仰の深刻な危機」にある現代、公会議の意味をあらためて考察していく中で、神の英知と聖霊の豊かな恵み、司教様の確信としての信仰が記されている。

☆ 今日のカトリック神学 —— 教皇庁教理省 国際神学委員会 カトリック中央協議会刊

世にあって神への奉仕に方向付けられ、知的なかたちで現代人に神の真理を提供するカトリック神学。その多様性について、カトリック神学の展望と原理を考察、基準を提供する。様々な環境の中、神学が多くの形態をとることの正当性と必然性を認めつつも、「唯一の主の声」を伝える教会の使命のもと、神学の唯一性と真のアイデンティティを明示する。

☆ 信じる力 大切なあなたに贈ることば —— 岡田武夫 オリエンズ宗教研究所

3・11 をはじめ不安の中にいる人々に、東京大司教が贈る希望のメッセージ。わずかなものを皆で分かち合う「五つのパンと二匹の魚」ことで、神の恵みが広がっていく。教会は喜びも悲しみも皆で分かち合います。幸福を求める人、平和の実現しようとする人、そして、苦しみ悩む人、だれもが自分を見出せるように

☆ 置かれた場所で咲きなさい —— 渡辺和子 幻冬舎

☆ 祈り Prayer —— エレン・G・ホワイト 福音社



みんなの広場

モッタイナイ

ヨハネ 三好

「このように選定しようとする事柄を、あらゆる面から推理し、検討した後に理性がどちらに一層傾いているかをしっかりとみさだめる。そして、感覚的な動きによらず、より強い理性的動きに従って、選定すべき事を検討し、決定すべきである。」

「自分が死に臨んでいるときを想像し、今の選定をなすに当たって、そのときに「あのようになればよかった」と思われる方法と基準を考察する。その方法と基準によって自分を律し、すべてに於いて自分の決定をなすべきである。」

「また、自分の財産に関しても、家族と家のためどれだけを当てるか、貧しい人々と他の慈善事業のためにどれだけを分与すべきであるかを熟考すべきである。」

「パンに関して節制する必要はそれほどない。というのは、通常パンによって食欲が過度に乱されるわけでもないし、他の食物と違って誘惑もさほど激しいわけではないからである。」

「飲酒の節制は、パンの場合よりも、より一層適切であると思われる。それ故、何が益となり、何が害となるかをよくよく見極めなければならない。そして、益するものを取り、害となるものを捨てるのである。」

「パン以外の副食物に関しては、厳しく完全な節制を守るべきである。なぜなら、食欲は乱されやすいし、誘惑も起こりやすいからである。その乱れを避けるために、二つの方法で節制を守ることができる。一つは、粗食をする習慣を養うこと、もう一つは、美食をするときは、少量にとどめることである。」

「病気になるように気をつけながら、適量を減らせれば減らすほど、より速やかに飲食について守るべき中庸がわかるようになるであろう。」

「何よりも警戒すべきことは、食事中に心が今食している物に完全に奪われてしまうことであり、また食欲にかられて急いで食べることである。また、食べ方においても、食べる分量においても自分の主人公でなければならない。」

「食事に関して不秩序を取り除くために極めて有益なことは、昼食か夕食の後か、食欲を感じないときに、前もって次の昼食・夕食のために飲食すべき量を心に決め、引きつづき毎日それを繰り返すことである。そして、どんな食欲や誘惑にあっても、その量を越えないようにする。乱れた食欲や敵の誘惑をよりよく克服するために、決めた量以上に食べたい誘惑にあうならば、かえってそれ以下を食べるようにする。」

できますか！ これは何？ 「霊操」(岩波文庫、門脇佳吉訳注1999年)からの抜粋です。こんなものばかり集めてお暇で結構。

「霊操」などと云うと、ともすれば現実からかけ離れたことのように思いがちではないか。毎日どこかを開いてちょっと読んでみても毎日のどこかに当てはまります。「アニマ・クリスティ」が毎日のことであるのと同じ。イエズス会員でもなく修道者でもないが、イエズス会員の専有物にしておくのは「モッタイナイ」。7月31日にはロヨラの聖イグナチオを記念します。(終)

教会報8月号の発行は、8月4日(日)です。	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会			
編集会議は7月28(日)です。	〒657-0061 神 戸 市 灘 区 赤 松 町 3 - 1 - 2 1			
記事原稿は、7月21日(日)正午までに信徒会館	電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6			
受付へご提出願います。(広報部)	発 行 責 任 者 松 村 信 也			
http://www.rokko-catholic.jp	編 集 広 報 部			